

酒類総合研究所は18日、2015酒造年度(15年7月～16年6月)の清酒の品質を競う全国新酒鑑評会の審査結果を発表した。福島県は都道府県別で最多の18銘柄が金賞に輝き、金賞銘柄の数で4年連続6度目の日本一に輝いた。

金賞

4年連続

日本一

金賞受賞銘柄

- 廣戸川：松崎酒造店(天栄村)
- 穂：仁井田本家(郡山市)
- あぶくま：玄葉本店(田村市)
- 三春駒：佐藤酒造(三春町)
- 奥の松：東日本酒造協業組合(二本松市)
- 会津中將：鶴乃江酒造(会津若松市)
- 名倉山：名倉山酒造(会津若松市)
- 嘉永蔵大吟醸：末廣酒造 嘉永蔵(会津若松市)
- 弥右衛門：大和川酒造店(喜多方市)
- 会津ほまれ：ほまれ酒造(喜多方市)
- 國権：國権酒造(南会津町)
- 榮四郎：榮川酒造 磐梯工場(磐梯町)
- 会津栄川：栄川酒造(西会津町)
- 玄宰：末廣酒造 博士蔵(会津美里町)
- 萬代芳：白井酒造店(会津美里町)
- 學十郎：豊国酒造(会津坂下町)
- 一生青春：曙酒造(会津坂下町)
- 大吟醸
きたのはな：喜多の華酒造場(喜多方市)

新酒鑑評会18銘柄

本県の4年連続日本一は初めてで、本県の日本酒の質の高さを改めて示し、全国へのアピール度を一段と高めた。全国から854銘柄が出品、入賞は413銘柄、うち金賞は227銘柄だった。本県からは昨年より2銘柄多い41銘柄を出品、うち入賞が金賞を含め26銘柄となった。昨年の金賞数は24銘柄で過去最多、一昨年は山形県と並ぶ17銘柄だった。

03酒造年度以降の受賞では、国権酒造(南会津町)と豊国酒造(会津坂下町)が9年連続、東日本酒造協業組合(二本松市)が県内最多の13度目となった。東日本大震災以降、原発事故の風評被害の影響もいまだ根強い中で、金賞を取り続け、県外で積極的に情報を発信し続けている。05酒造年度以降(過去10年間)は常に2位以上の好位置を維持している。

大型観光企画「アフター福島民友新聞社は、勢いある本県酒の全国での実績をたたえて「ふくしまの酒蔵」(県酒造組合、新城猪之吉会長)を「第26回みんゆう県民大賞」の「ふるさと創生賞」に選んだ。20日に表彰式を行う。